

「電柱切断」“速く・安く・ラク”に

ー現場アイデアを実現ー



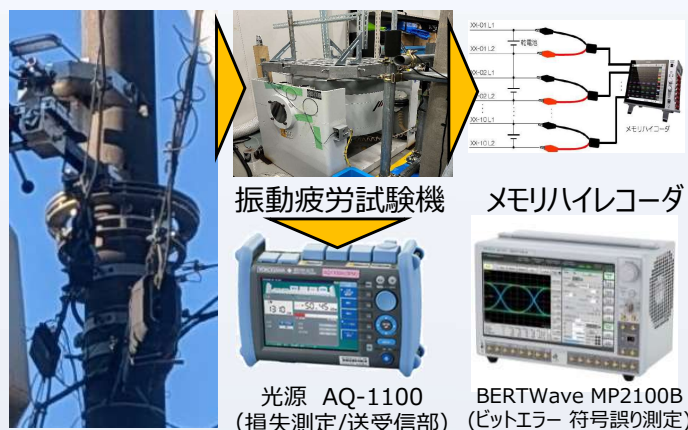
背景・概要

現状、支障移転や電柱更改時においてケーブル架渉位置により移設先の電柱に移架することができず張替を行っている。

今後、NTT所有の共架CPを対象に、ケーブルを架渉したまま電柱切断を許容し移設先の電柱にケーブル移架を行うことで、張替を抑制し回線借用を要することなく工事を実施し納期短縮を可能とする。

問題・課題・解決方法

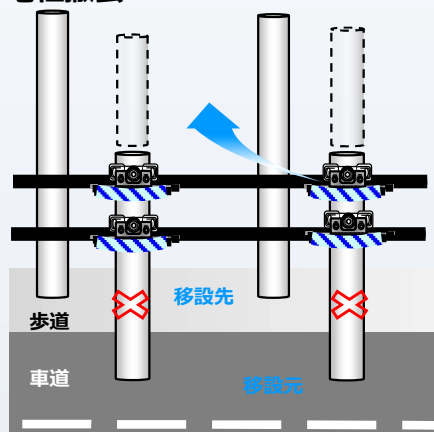
- ① 油圧式切断機の振動による回線影響
- ② 振動データを取得・再現し検証
- ③ メタル・光サービスへの回線影響なし



移設イメージ

✓ 道路拡幅による支障移転工事（例）

- 手順① 第一架渉位置より概ね300mmを電柱切断
 手順② ケーブル移架・ち度調整
 手順③ 電柱撤去



特徴（効果）

◆ケーブル張替を抑制することによる想定効果

①お客様CX向上：回線サービス品質の向上 / 工期短縮化

回線サービス品質の向上

（ケーブル張替え対応に伴う回線断の防止 / 誤接続のリスク回避）

間接業務の稼働削減（回線借用手配の不要 等）等に伴う工期短縮

（ケーブル張替え対応：2～3ヵ月 ⇒ 電柱切断工法：数日）

②コスト削減 東日本：▲5 億円/年 西日本：▲1.44億円/年